

大阪市立東小橋小学校

令和元年度 校長経営戦略支援予算 【加算配付】 実施報告書
(補足説明資料)**【加算配布】**

①いじめのアンケート調査に関しては、5月、11月、2月の3回実施した。月1回の生活指導部会では、いじめのアンケート調査やいじめ早期発見チェックリストをもとにしながら打開策を打ち出してきた。生活指導部会で話し合った内容や職員会議などで、配慮の必要な児童や課題のある児童に対して全教職員で共通理解を図ることで協力して指導にあたることができた。また、家庭訪問や学級懇談会などから情報収集を行い、具体的な方針や対応を検討しながら組織的に対応することができた。さらに「いじめについて考える日」を設定し、集団育成（仲間づくり等）についての学校長の講話や教員による特別活動や道徳授業を実施した結果、いじめ防止の意識を高めることができた。これらの取り組みにより、全市共通目標の「いじめを解消した割合を95%以上にする」では、「いじめアンケート調査」をもとに算出した結果、96.9%であり、全市共通目標を上回ることができた。

②よりよい学校生活の実施に向けて、生活目標の掲示や朝会での講話、学級指導等により、きまりを守って安全に生活しようとする態度が育ってきた。また、一方通行の遵守や遊放時後の切り替えの徹底など児童会を中心とした自発的、自律的な取り組みを工夫することができた。その結果、児童の安全に対する意識が高まっている。学校評価アンケート（児童）結果では、およそ90%の児童が「きまりを守っている」と回答していることからも、児童の安全に対する意識が高まっているといえる。

③児童アンケートの結果は以下のとおりである。質問①「勉強をがんばっている」（令和元年度89%）、質問②「国語や算数の学習で登場人物の気持ちを読み取ったり、問題の解き方を考えたりしている。」（令和元年度84%）、質問③「漢字や計算を練習して、できるようになってきている。」（令和元年度94%）質問④「音楽や体育などいろいろなことに挑戦しできるようになっている。」（令和元年度94%）4つの質問のうち、3つが質問85%以上の肯定的回答を得られた。質問②は85%に届かなかったものの84%と高い数値を示した

上記を達成するために、以下の1つの取組を行った。

1. 取組内容（1）について**①取り組み内容**

各学年に応じた図書を選定し、学級の全員が同じ本を同時に読み進めていく中で、読書カードを活用し子ども一人ひとりの感想の豊かさや読み取りの力を育成する。また、読書発表会を全校で実施しプレゼンテーション能力の育成を図る。

読むことの領域の正答率が極端に低いので、読み取る力につけるための読書の質と量を増やすと共に授業展開を研究し、学力向上を図ることにより、学校生活アンケートの①「勉強をがんばっている」、②「国語や算数の学習で登場人物の気持ちを読み取ったり、問題の解き方を考えたりしている。」③「漢字や計算を練習して、できるようになってきている。」、④「音楽や体育などいろいろなことに挑戦しできるようになっている。」の肯定的回答を全て 85%以上にする。

○取り組みに対する達成状況及びその評価

本年度は「ともに学び合う子どもを育てる。—ICTでひろがる世界！「考える」っておもしろい！！—」を研究テーマとして、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために学習過程の質的な改善を目指し、授業を進めた。

児童があらかじめ考えたことを意見交換したり、話し合ったりすることで新たな考え方方に気が付いたり、自分の考えを深めたりできるようになった。また、見通しを持って粘り強く取り組むとともに自らの学習をまとめて振り返り、次の学習につなげるように学習することができた。その成果がアンケート結果に出たものと考える。

結果として、B評価とした。

2. 総論

①年度目標の達成状況

子どもが自ら考え、課題解決に向けて互いの意見を交流し、自分との類似点や相違点を見つけ、新たな発見をするなど、ひとりひとりの子どもが思考を深めたり広げたりできる様な授業を進めることができた。また、『考える力』を伸ばすために効果的にICT機器を活用し、人の意見や考えを交流し、自分一人では考えつかなかつた発想にふれる学習を行うことができた。このような学習過程においては児童が主体的・対話的で深い学びができた。

②学校協議会における意見

今後さらに、自ら進んで問題を解決する力を育成する指導を進めて欲しい「全国学力・学習状況調査」や経年調査の結果や単元テストの分析などから児童個々の実態を把握し、習熟度別少人数指導や個に応じた指導により基礎・基本の確実な定着が図られている。今後、児童自らが考えを積極的に発表できるように継続して欲しい。